母校訪問記

創立100年、地域の農業と関連産業発展のために多くの人材を生み出す帯広農業高校

帯広農業高校　校章

土地改良事業を円滑に推進していくためには、それを担い得る農業農村工学系の若い技術者の育成、確保が緊急の課題となっている。このため、全国の農業農村工学系の教育現場の学校を紹介することにより、関係者の関心を高め、若い技術者の育成・確保につなげることとした。

訪問者	国土交通省北海道開発局　深川農業事務所　所長	武下　和幸	（昭和56年　農業土木科卒）
	国土交通省北海道開発局　帯広農業事務所　第1工事課計画係長	目黒　綾	（平成10年　農業土木科卒）
	国土交通省北海道開発局　帯広農業事務所　第1工事課第1建設係	安保　綾真	（平成29年　農業土木工学科卒）
	国土交通省北海道開発局　旭川農業事務所　第3工事課第1建設係	立川　愛理	（平成31年　農業土木工学科卒）

今回の訪問先は、日本有数の食料基地である北海道の十勝平野、その中心の帯広市にある北海道帯広農業高等学校（二木浩志校長〈訪問当時：令和二年十二月七日〉）です。

本校は、大正九年に「十勝農業学校」として実業教育の歴史を歩み始めました。昭和二十五年には「川西農業高等学校」として、新たな十勝の農業を創設するための人材育成の高校として始動し、昭和三十二年には、現在の「北海道帯広農業高等学校」と校名を変更しています。そして令和二年に創立一〇〇周年を迎えた歴史と伝統ある学校です。

本校は農業教育のみならず、スポーツにも力を入れており、多くの部活動が全国で活躍しています。そして、コロナ禍の令和二年八月には野球部が甲子園高校野球交流試合に出場し勝利を収めたことは記憶に新しいところです。

今回の訪問者は、本校農業土木工学科を卒業し、現在北海道開発局で活躍している職員四名です。農業土木工学科の先生に高校の概要や教育方針などをお聞きするとともに、同学科一年生の皆さんに対する、訪問者の業務紹介の時間も設けさせていただきました。

1　農業土木工学科　高山先生へのインタビュー

――学校として目指す生徒像を教えて下さい

本校は「礼儀　協同　勤労」を校訓としており、教育の目的は「食・農・環境」の専門的実践実学教育を

展開し、広い教養・専門的な知識と技術を身に付けた、心豊かで自立精神にあふれた農業経営者と農業関連技術者ならびに農業理解者を育成することです。

この校訓と目的に基づき、「礼儀正しく、きまりを守り、思いやりのある心豊かな人間性と社会の変化に主体的に対応できる人材」を目指す生徒像として掲げています。具体的には、

① 社会人としての広い教養と公正な判断力を身につけた生徒
② 農業の社会的役割を理解し、生産・加工・販売の喜びを体得した生徒
③ 地域産業の発展に必要な知識と創造力を培い、地域のリーダーとなる生徒
④ 郷土と自然に対する豊かな愛情と思いやりある心や態度を培った生徒
⑤ 健康な心身を持ち、平和で明るい社会をつくる能力のある生徒

の育成を目指し、本校職員一丸となって地域と共に教育を推進しています。

ご対応いただいた先生

高山　裕司　教諭
平成13年　帯広畜産大学卒業
平成15年　岩見沢農業高等学校
平成23年　帯広農業高等学校

――学校の特色やＰＲポイントを教えて下さい

今年、本校は開校から一〇〇周年の節目を迎えました。この一世紀の間、送り出した卒業生は約一万八千人、「農業王国」十勝はもとより道内農林業の担い手の輩出の一翼を担ってきました。現在生徒数は五八三人、農業土木工学、農業科学、食品科学、酪農科学、森林科学の五学科から成り、広大な敷地の中で実践実学教育を展開することで、農業経営者や農業関連技術者を数多く輩出しています。また、農業を学ぶ高校生が全員参加する全国組織である農業クラブの活動では、本校は全国大会で最優秀賞に入る活躍をしています。

創立100周年記念樹

近年はスポーツ分野での飛躍も目覚ましく、野球部は過去二度の甲子園大会に出場、陸上部や柔道部、スケート部は全国大会で上位入賞を果たしています。さらに人気漫画で映画化もされた「銀の匙」やＮＨＫ連続テレビ小説「なつぞら」の舞台のモデルとなり、全国から注目を集めている学校です。

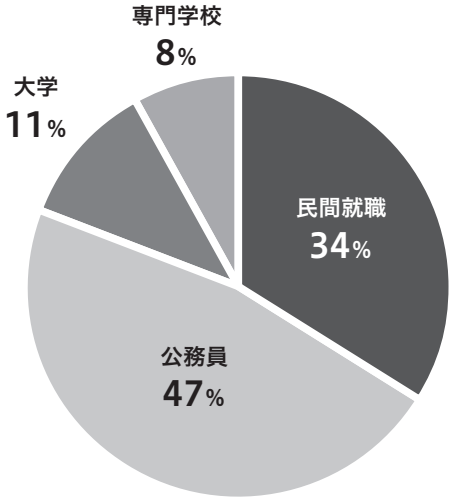
――農業土木工学科の紹介をお願いします

農業土木は、農業の発展になくてはならない分野であり、農業生産性向上のための事業や農村地域の発展、環境保全などに貢献できる学問です。

測量実習の様子

本校の農業土木工学科の歴史は、十勝農学校時代の昭和十六年四月、農業土木科（現在の農業土木工学科）が設立されたのが始まりです。広大な農地、未開発地を有する十勝で土地改良事業を推進すべく、農業土木技術者の育成を目的に設立されました。

現在、農業土木工学科には十勝管内はもとより一部管外出身者も含めて一一九人の生徒が在籍しています。学科の目標は、農業のための土地及び労働の生産性を高めるための、農業工学的な業務に従事する技術者を養成することです。生徒は、農学と工学の両分野を学ぶことで、農業土木と土木の基礎を身に付けることができます。具体的には、環境に配慮した道路や水路、排水改良のための暗渠や明渠、かんがいのためのダム、頭首工や用水路等の計画設計、農村計画、環境整備事業などを学習します。



最近5年間（平成27年度～令和元年度卒業生）の進路状況

主な授業科目は、次のとおりです。

- 農業と環境……実際に作物を育て、農業の基礎を学びます。
- 測量……測量実習から製図まで行います。
- 農業土木施工…建設機械、工事方法について学びます。
- 農業土木設計…材料や構造の強さ、水と土の力学的性質について学びます。
- 農業情報処理…ビジネス文書検定や情報処理検定の資格取得を目指します。

――農業土木工学科の卒業生の進路を教えて下さい

昭和十六年の設立以来、三〇〇五名の卒業生を輩出しており、その進路は、国家公務員（北海道開発局）、地方公務員（北海道・市町村）、土地改良区、土木関係会社、農協・民間会社・進学と多岐にわたっています。多くの生徒が学科の目標と合致した方向に進路を求めている点が特徴です。最近五年間では、卒業生は主に公務員、民間企業の農業土木・土木技術者として就職しています。

2　農業土木工学科一年生の皆さんへの業務紹介

訪問した北海道開発職員が、農業土木工学科の一年生四〇名に対し、北海道開発局の役割、農業部門の仕事とやりがい、自身の経歴や現在従事している仕事の内容等について紹介した後、参加生徒からの質問にお答えしました。

〈業務紹介〉

（職員）北海道は日本の食料供給を担っており、また、観光資源も豊富です。こうした北海道の資源や特性を活かして我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国は「北海道総合開発計画」を策定しています。「北海道総合開発計画」という言葉は、皆さんにはあまり馴染みがないかもしれませんが、北海道開発局では、この計画に沿って事業を進めています。

本日訪問した四人の職員は、農地の大区画化を担当する者、用水路の整備を担当する者、これらを総括する者と、勤務場所や役職によって業務内容は様々ですが、農業部門の仕事の特徴の一つと

業務紹介の様子

して、受益者などの地元関係者と直接やりとりする機会が多いという点があります。感謝の言葉をいただけて仕事のやる気につながります。

　また、北海道開発局に入局すると、転勤などでいろいろな土地に赴き、その土地の文化や食にふれ合うことができます。プライベートでも多くの新しい経験ができます。さらに北海道開発局では、年次休暇の取得促進、フレックスタイム制度や仕事と育児の両立支援制度の導入等、ワークライフバランス実現のために様々な取組を積極的に進めていますので、趣味や家族のために使う時間も充分あります。

〈質疑応答〉

（生徒）北海道開発局で働いている女性は何割程度ですか。

（職員）北海道開発局では、女性技官の採用が増えており、近年の採用実績では三割程度が女性です。北海道開発局の農業部門単独としても同様で、例えば令和二年度の農業部門の新規採用者は、三人に一人が女性です。

（生徒）休暇はどのくらいありますか。

（職員）原則として土日祝日は休みで、それ以外にも有給休暇等を平日に取得できます。忙しい時期もありますが、ひとり忙しく仕事をするわけではないので、職場の仲間と調整すれば、定期的、計画的に休暇を取得できる職場です。北海道開発局に入ってから新しく趣味を持つ人もたくさんいます。

　休暇の過ごし方は人それぞれです。本日訪問した四人の職員は、職場の仲間と釣りを楽しんだり、地域の人たちと野球やアイスホッケーなどの運動で汗を流したり、子どもと遊んだり、家でゴロゴロしたりして休暇を過ごしています。

**　今回の訪問では、創立一〇〇周年を迎えた帯広農業高校の伝統と歴史を目の当たりにしました。また、私たちとすれ違う生徒は皆立ち止まって挨拶をして下さり、業務説明会での態度も真剣で、校訓の一つである「礼儀」が浸透していることを感じました。**

**　北海道開発局では、約六〇〇名の農業土木職員のうち、およそ四人に一人が帯広農業高校の出身者です。令和二年度も、本校から三人の卒業生が北海道開発局の農業土木職員として採用され、新たな人生の一歩を踏み出しています。今後も本校の卒業生が北海道開発局の中心となって活躍することを期待するとともに、我々も先輩として頑張ります。**

**　ご多忙の中、ご対応いただいた帯広農業高校の皆様、ありがとうございました。**

職員の説明を熱心に聞く生徒

訪問した北海道開発局の職員

武下　和幸

農業土木科を昭和56年に卒業
同年4月に北海道開発局に入局
令和2年4月より現職

目黒　綾

農業土木科を平成10年に卒業
同年4月に北海道開発局に入局
令和3年4月より現職

安保　綾真

農業土木工学科を平成29年に卒業
同年4月に北海道開発局に入局
令和2年4月より現職

立川　愛理

農業土木工学科を平成31年に卒業
同年4月に北海道開発局に入局
同年4月より現職